



UTCPワークショップ

ファンタジーの反射＝反省（リフレクション）

私たちの時代のリアリティは、第二、第三、いや第 n の（反）自然へと多層化されている。乱反射してやまぬ「ファンタジー」の破片たちのめくるめく明滅のなかで「反射＝反省」（リフレクション）を続ける私たちの（夢）現存在。「胡蝶の夢」（荘子）そして「電気羊の夢」（フィリップ・K・ディック）、いや人間という夢の朧なる消息——その途上にあって真摯に迷いなおすために、本ワークショップでは、リアリティへと対峙して批判性の距離を刻む「虚構 fiction」とも、リアリティの足もとを溶かし脱構築する不気味な「幻想 fantasme」とも違う、それ自体の反射——ないし自己触発——に内在して反省される「ファンタジー」の概念を問おうとする。海野十三論（中尾）、稲垣足穂論（千葉）、宮崎駿論（宇野）という三つの各論を提示した上で、「パンタシアー」概念の思想史的背景へと遡り（星野）、ファンタジーの哲学を共同で素描する。

2010年3月19日（金）14:00-17:00

東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボレーションルーム 2

14:00-14:15 趣旨説明（千葉雅也）

14:15-14:45 中尾麻伊香「海野十三の空想科学小説における兵器のファンタジー」

14:45-15:15 千葉雅也「稲垣足穂の美学＝感性論におけるベルクソン哲学の援用と性の問題」

15:15-15:45 宇野瑞木「『となりのトトロ』試論—背景がキャラクター化する瞬間」

16:00-16:20 星野太「現出の中動態——パンタシアー／イマジナツィオの変貌」

16:20-17:00 全体討議

司会：千葉雅也 コメンテーター：串田純一

使用言語：日本語訳 入場無料・事前登録不要

主催：東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」

